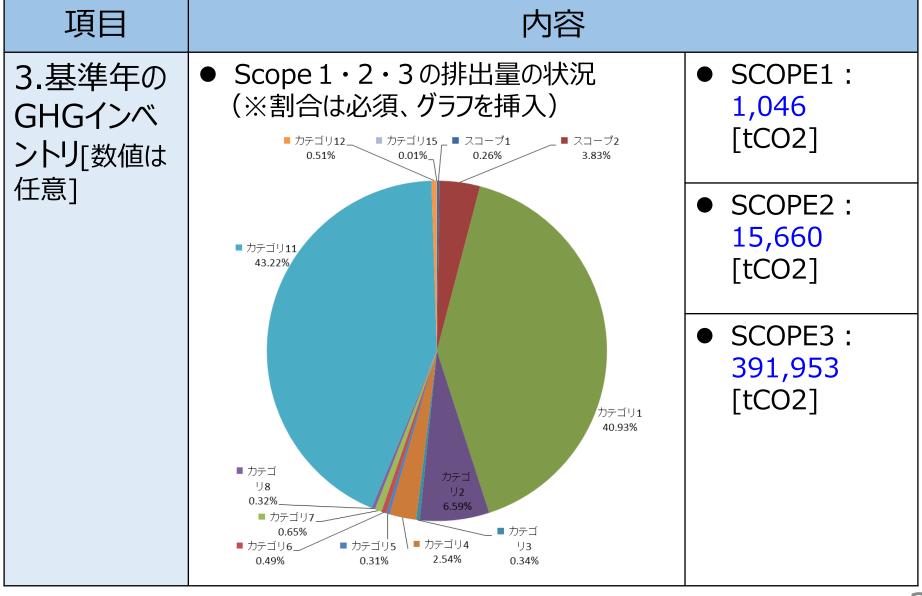
項目	内容
1.企業情報	<ul> <li>業種:機械製造</li> <li>事業概要:通貨処理機、情報処理機、自動販売機、自動サービス機器などの開発・製造・販売・メンテナンス</li> <li>事業規模:売上高 2,226億円、従業員数 9,296名 2017年3月(連結)</li> </ul>
2.削減目標 案 ※定量値公表 が難しい場合、 定性的説明でも 可	<scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み="">目標:総量同率削減による設定にて検討中。取り組み:工場、事業所にて照明LED化や各種設備の省エネ型への更新。 <scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み="">Scope3カテゴリ11:製品開発時に、従来機比、消費電力量低減率15%以上。取り組み:待機時の消費電力を抑える仕組みの導入、低消費電</scope></scope>
	力部品の採用。



項目	内容
4.気候変動 によるリスクと 機会の分析	<ul> <li>気候変動問題への取組状況を投資先の選定基準に取りいれる機関投資家が増大しており、温暖化防止に対する適切な取組みやその情報公開を怠った場合、投資家の投資判断の悪化による株価の低下に繋がるリスクがある。</li> <li>自社の製品は、省エネ法の対象外であるが、自主的に法令の規制レベルにエネルギー消費効率を改善することにより、その性能を環境意識の高いお客さまに提案することができ、販売拡大の機会がある。</li> </ul>
5.削減目標 設定の背 景・目的・期 待する効果 など	● 気候変動のリスクと機会に取り組むため、環境中期計画を策定。この計画において、自社の気候変動に関する目標が、2度目標の水準に整合すると表明できるように、SBTの認定を受けることを目指している。

項目	内容
6.目標設定 のプロセスと 社内の議論	<ul> <li>■ 環境部門で目標案を検討し、社内環境管理委員会で社内コンセンサスを得た上で、SBTイニシアチブへ提出したい。社内環境管理委員会では、自社の社会的な責任を踏まえ、野心的な全社目標の必要性を共有したい。</li> </ul>
7.今後の課題	● Scope1・2は、総量目標であり、事業(売上高)の拡大も目指す事業計画から、再生可能エネルギーの導入も含め、トップを巻き込んで検討中です。